



学 ぶこと

働 くこと

生 きること

—中学生の進路の学習に当たって—

■ 保護者の皆様へ

将来、子供たち一人一人が、社会人として自立し、自分の人生を生きていくためには、学校教育における学びを自己の将来や職業と結び付けて生きていく必要があります。そのため、学校では、進路の学習をより広義に捉えた、小・中・高の学びをつなぐ「キャリア教育」の充実を図っているところです。

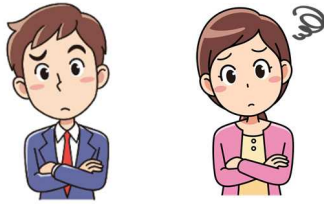
中学校及び義務教育学校後期課程（以下、中学校）における進路の学習は、自分の個性を理解し、主体的に進路を選択する資質・能力を身に付けるための学習であり、入学当初から計画的に実施していきます。

保護者の皆様には、このパンフレットを通して、中学校の「キャリア教育」の中で行われる進路の学習について御理解をいただくとともに、家庭においても、将来や生き方について話し合う機会をもち、夢や希望の実現に向けて努力する子供たちを支援していただきたいと思います。

令和3（2021）年3月
栃木県教育委員会

進路の学習について

中学校では、進路の学習が、どのように行われているのでしょうか。



保護者として、どのように関わればよいのでしょうか。

Q1 進路の学習では、どのようなことを大切にしていますか。

興味・関心や適性等を重視する進路の学習

中学校段階の子供は、心身両面にわたる発達が著しく、自己の生き方についての関心が高まる時期であり、進路の選択に当たっては、将来を見据え、自分の興味・関心や適性等を重視することが大切です。

進路の学習では、子供たち一人一人が、自分自身を見つめ、自分と社会の関わりを考え、将来、様々な生き方や進路の選択が可能であることを理解できるようにするとともに、自らの意思と責任で自己の生き方や進路を選択できるよう支援することが必要です。中学校卒業後の就職や進学について意思決定することがゴールではありません。

中学校卒業後も、様々なことを学んだり、職業経験を積んだりしながら、自己の生き方や生活をよりよくするため、常に将来設計を描き直したり、目標を段階的に修正して、自己実現に向けて努力していくことができるようにすることが大切です。

Q2 学校では、将来の進路選択に向けてどのような学習をするのですか。

キャリア教育

学校教育全体を通してキャリア教育が進められ、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力（基礎的・汎用的能力）を身に付けられるよう、一人一人のキャリア形成と自己実現を目指す指導が実施されています。子供たちは、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通して、日々の学習に取り組みます。

【キャリア教育】

キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育です。

※ キャリア発達・・・社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。

※ キャリア・・・キャリア教育における「キャリア」とは、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねのこと。

キャリア教育の要としての特別活動

キャリア教育は、学校の教育活動全体の中で、意図的、継続的に推進していくものです。特に、学級活動の時間には、子供たちは職業について学習し、個々の職業の特性やその職業に就くために必要な事柄等についても学びます。さらに、働くことと学ぶこととの関係を理解するための学習も行います。子供たちが、自分の能力や知識・技能によって自己を生かす機会や可能性を広げることができることに気付き、急速に変化する社会において、生涯にわたって学び続けることの大切さを自覚できるようにします。

体験活動の充実

また、学校では、職場体験活動やボランティア活動等の体験活動を充実させるとともに、活動の振り返りをさせることで、キャリア発達を促していきます。

Q3 子供たちが、将来、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現するために身に付けるべき力とは何ですか。

キャリア教育で育成すべき資質・能力

キャリア教育で育成すべき資質・能力は、「基礎的・汎用的能力」といい、具体的には、以下の四つの能力によって構成されます。

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」、「意義を感じること」、「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

基礎的・汎用的能力

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

子供たちが将来直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会的・職業的に自立していくために、一人一人が、学ぶこと、働くこと、そして生きることなどについて考え、それらの結び付きを理解し、多様な他者と協働しながら、自分なりの人生をつくっていく力を身に付けることができるよう支援していきます。

Q4 子供の個性を捉え、それを伸ばすには、どうすればよいでしょうか。

自分の長所の自覚

子供の個性は、家庭や学校など周りの人たちの影響や生活経験、本人の努力などによって次第に形作られるものです。日頃の行動や性格、興味・関心、趣味や特技など多くの面から子供の長所を見付け、それらを子供自身に自覚させることが大切です。

また、自分の長所を生かせる職業は何か、自分を自分らしく輝かせることのできる進路（生き方）はどのようなものであるかを子供自身にしっかりと考えさせることも大切です。

さらに、様々なライフスタイルがある時代だからこそ、「自分は、何を大切にしているのか」という、生き方の道しるべともなる価値観を、子供たちが探究することが必要です。

Q5 保護者として、「働くことの意義」を教えたいのですが、どのように伝えたらよいでしょうか。

保護者の思い

子供の進路希望、とりわけ将来の職業に関する希望については、保護者の「働くこと」に対する考え方や態度が大きく影響すると言われています。そこで、日常の会話の中で、また時には時間をかけて、「働くことの喜び」や「働くことの実態や厳しさ」などについて語りかけることが大切です。それらについて子供と対話することによって、子供は、「働くことの意義」を少しずつ理解できるようになると思います。

目前のテストや成績のことなども気になりますが、我が子の「人生の案内役」を務める親として、子供と共に具体的な職業や職業を通じた社会との関わりについて対話を深めることは、子供の勤労観・職業観を育むとともに夢や目標をもたせる上で大切なことです。

また、「子は親の背中を見て育つ」と言われます。子供は保護者の働く姿や地域行事等へ参加する姿を見て、職業に対する考えや生き方を自然に学んでいる点も多いことに留意します。

Q6 子供の進路について、学校と、どのように連携していけばよいでしょうか。

進路の学習に関心をもつ

中学校の「キャリア教育」における進路の学習は、学校内での教育活動だけでは十分ではありません。そのため、保護者として子供がこれまでに進路についてどのような認識をもっているのか、その内容や状況について関心をもつことが大切です。

積極的な情報交換

家庭訪問や教育相談以外でも、特に学級担任と進路の学習についての情報交換を積極的に行うとよいでしょう。共通理解を図ることによって、具体的な場面での連携・協力が可能になり、より効果的な進路の学習が実現できます。保護者として、また、社会人としての豊かな人生経験や考え方を子供たちのために役立てていただきたいと思います。

「キャリア・パスポート」の活用

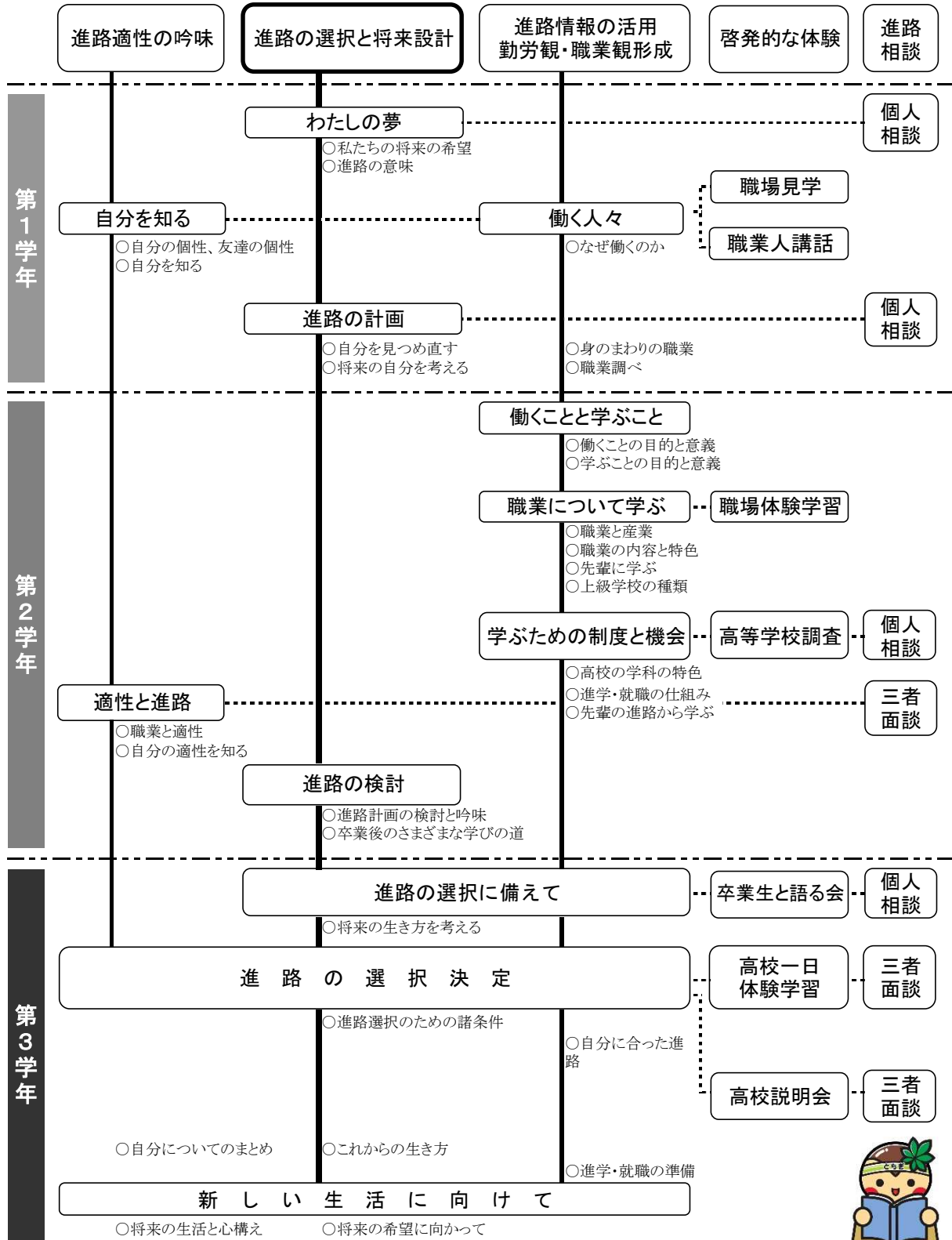
令和2（2020）年4月から、子供たちが、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、自身の変容や成長を自己評価できるように工夫された「キャリア・パスポート」の作成と活用が始まりました。子供たちが自ら気付いたことや考えたことを書き留めるだけでなく、それを基に、教師と対話をしたり、子供たち同士の話合いを行ったりすることを通して、自分自身のよさや興味・関心などについて、多面的・多角的に自己理解を深めることとなります。

「キャリア・パスポート」は、学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容となっており、大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わるのが重要です。子供が「キャリア・パスポート」を持ち帰った際には、それを基に話し合ったり、子供が頑張っているような肯定的なコメントを書いたりすることが望まれます。

子供を温かく見守りながら成長を受け止め、子供が自己有用感を感じ、自己変容を自覚できるようにしていくことがキャリア発達を促すことにつながります。

中学校3年間の主な進路の学習

中学校3年間の進路の学習では、主にこのようなことを学びます。



県立高等学校の種類や特色

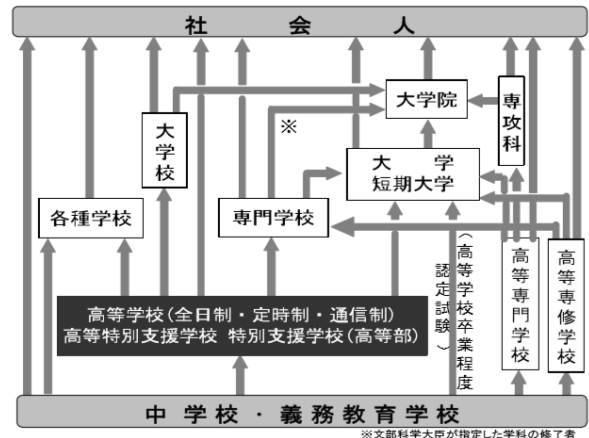
中学校を卒業してからの進路は、右の図のように様々です。進路を選択するに当たっては、自分のもっている能力や適性を十分に生かすことが大切です。

教育を取り巻く社会環境が大きく変化中、時代に即した教育活動を展開するため、県立高等学校でも様々な取組を行っています。

ここでは、県立高等学校の種類や特色の概要を紹介します。詳細については、中学校の学級担任や進路担当の先生に聞くなどして、最新の情報を入手してください。

「県立高等学校の学科の種類や内容等」に関する情報は栃木県のホームページを御参照ください。

栃木県ホーム>教育・文化>学校教育>高等学校>とちぎの県立高校ガイド2021



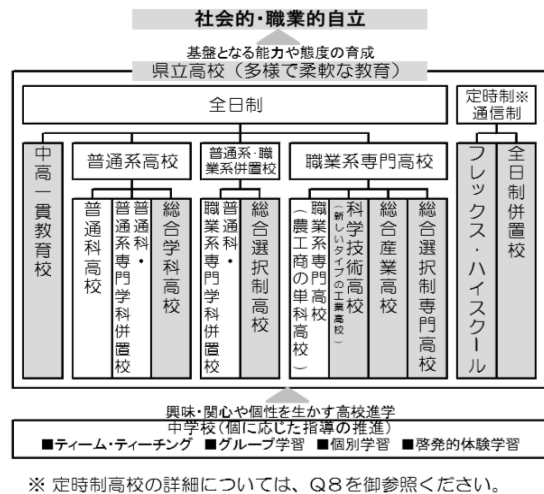
Q1 県立高等学校の種類や特色ある取組について教えてください。

特色ある取組の推進

栃木県では、生徒一人一人の学び意欲や目的意識を高め、個性や能力の一層の伸長を図るため、総合学科高校や総合選択制高校を設置するなど、県立高等学校の特色化を進めてきました。

（栃木県に設置されている主な学校の種類は、右図のとおりです。）

また、全ての県立高等学校が、教育活動の重点を示した「目指す学校像」等に基づき、特色化に取り組んでいます。各学校の特色や取組内容を調べ、子供の興味・関心や適性を生かすことができる高校を選択することが大切です。



Q2 総合学科について教えてください。

総合学科の特色

県立高等学校には、国語・数学などの共通科目を中心に学ぶ普通科と、工業・商業などの専門科目を中心に学ぶ専門学科、そして、幅広く開設された共通科目及び専門科目の中から、将来の進路希望や興味・関心に応じて自ら科目を選択して学ぶ総合学科があります。総合学科の特色は、次のとおりです。

○幅広い選択科目

共通科目に加え、芸術・家庭・情報等の専門科目など、幅広い科目を開設しています。（一般的な普通科の2倍以上となる100科目程度を開設）

○自分だけの時間割

高校生として必ず学ばなければならない科目もありますが、2年次以降は複数ある系列（科目群）から大学進学や就職など自分の進路希望を実現するために必要な科目や、興味・関心のある科目を選び、自分の時間割を作ります。

○産業社会と人間

1年次に学ぶ「産業社会と人間」の授業で、生き方や将来の職業について深く考え、その実現に向けた学習計画（時間割）を立案できるようにします。

本県で、総合学科が設置されているのは、今市高校、小山城南高校、足利南高校、茂木高校、黒磯南高校、さくら清修高校の6校です。

Q3 専門学科の中には、どのような学科がありますか。

主な専門学科

専門学科には、農業・工業・商業・家庭・水産・福祉の職業教育を主とする学科（職業系専門学科）と、理数・体育に関する科目について専門的な教育を行う学科（普通系専門学科）があります。（栃木県に設置されている主な学科は、下記のとおりです。）

職業系専門学科では、企業等との連携を図りながら、充実した施設・設備を活用した実践的な教育を行っています。体験的な学習（実験・実習）を通して、社会に出てから役に立つ専門的な知識と技術を身に付けることができます。また、就職だけでなく進学にも有利な様々な資格を取得することができます。

職業系 専門学科	農業	農業経営科、動物科学科、生物工学科、食料生産科、農業機械科、食品科学科など
	工業	機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築科、建設科など
	商業	商業科、流通経済科、情報処理科、総合ビジネス科、リゾート観光科
	家庭	総合家庭科、服飾デザイン科、栄養食物科、食物文化科、生活文化科など
	水産	水産科
	福祉	介護福祉科
普通系 専門学科	理数	数理科学科
	体育	スポーツ科

Q4 科学技術高校（新しいタイプの工業高校）について教えてください。

科学技術高校の
特色

ものづくり県である本県産業の将来を担う技術力に対応できる人材の育成等を目指して設置された、新しいタイプの工業高校です。

技術の複合化・高度化に対応するため、工業全般について広く学びとともに専門性の深化を図ることを目指し、1年次では、関連性の高い複数の学科を大きくくりにした学科群（系）の中で、幅広く工業全般の基礎・基本を学びながら自分の進むべき分野を決定し、2年次からは、各学科の学習内容を更に細分化したコース（類型）に分かれ、専門性を深めていきます。

本県の科学技術高校は、宇都宮工業高校の1校です。

Q5 総合選択制について教えてください。

学科の枠を越え
た科目選択

複数の学科が設置されている高校において、自分の所属する学科の科目を学ぶほかに、自分の進路や適性、興味・関心等に応じて、学科の枠を越えて他学科の科目を選択して学ぶことができるシステムです。

総合選択制
専門高校

総合選択制の高校には、2種類あります。一つは、農業・工業・家庭などの専門学科のみを複数設置している総合選択制専門高校で、宇都宮白楊高校、佐野松桜高校、真岡北陵高校、那須清峰高校及び矢板高校の5校があります。

総合選択制
高校

もう一つは、普通科と専門学科とを併置した総合選択制高校で、普通科・専門学科の枠を越えた科目選択が可能です。普通科では、生徒全員が必ず職業系の専門科目を学ぶなど、体験的・実践的な学習を通して、職業についての理解を深め、働くことの意義を学びます。本県の総合選択制高校は、鹿沼南高校、足利清風高校及び高根沢高校の3校です。

Q6 総合産業高校について教えてください。

各産業について
幅広く学ぶ

生産から流通・消費までを一体として学び、一つの分野にとらわれない総合的な知識と技能をもった人材を育成することを目指して設置された専門高校です。

そのため、1年次の期間を自分の職業適性や将来の進路を考えるためのガイダンスの期間と位置付け、自分の所属する専門学科だけでなく、全ての学科の基礎科目を全員が学習し、産業全体について幅広く学びます。

また、2年進級時に、一定の範囲内での所属学科の変更も認められています。そして、2年次からは、各学科の中でコース（類型）に分かれ、専門性を深めていく期間と位置付け、それぞれの専門分野をより深く学習します。

本県の総合産業高校は、小山北桜高校の1校です。

Q7 単位制高校について教えてください。

多様な教科・科目を開設

単位制高校では、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた多様な教科・科目が開設されます。生徒は、自分の学習計画に基づいて、幅広く開設された選択科目の中から、主体的に科目を選択し学習することができます。

単位制の導入

単位制は、県立高校再編計画において、1学年3学級で生徒を募集する高校と、大学進学を目指す生徒が多い一部の高校に導入することとしており、平成30（2018）年度には、馬頭高校に、令和2（2020）年度には黒羽高校と那須高校にそれぞれ導入されました。令和4（2022）年度には、足利高校、並びに宇都宮中央高校に導入します。

Q8 定時制・通信制高校には、どのようなタイプがありますか。

多様な学習ニーズへの対応

定時制・通信制高校では、多様な学習ニーズに柔軟に答える学校として、働きながら学びたい生徒はもちろん、中学校時代に不登校を経験したり、高校を中途退学したりしたものの、もう一度学び直したいという生徒を支援する教育にも力を入れています。

定時制高校の改編

定時制・通信制高校には、全日制高校に併置しているタイプと、定時制・通信制だけの独立校であるフレックス・ハイスクールがあります。

県立高校再編計画に基づき、令和元（2019）年度以降、全日制と併置している一部の定時制高校について、夜間定時制を夕夜間定時制や昼夜間二部制定時制に改編しました。

夕夜間定時制

夕夜間定時制では、これまでの夜間の4時間の授業に加え、夕方にも2時間の授業を開設します。このことにより、自分の学習時間帯を、夕方から4時間、夜間のみ4時間、夕方・夜間6時間の三つから選択することができます。1日4時間の学習の場合、卒業までに4年間かかりますが、1日6時間の学習を選択した場合、3年間で卒業することも可能です。

昼夜間二部制定時制

夕夜間定時制は、令和元（2019）年度に足利工業高校及び真岡高校に、令和2（2020）年度には鹿沼商工高校に、それぞれ夜間定時制を改編し、設置しました。

昼夜間二部制定時制では、午後4時間の授業（午後部）を開設しています。このことで、生活に合わせ、午後部と夜間部の二つの学習時間帯から選択し入学できます。また、自分の所属する部以外の部の授業を選択履修することができ、1日6時間の学習を選択した場合、3年間で卒業することも可能です。

通信制課程

昼夜間二部制定時制は、令和2（2020）年度に宇都宮工業高校の定時制を改編し、設置しました。

通信制課程は、宇都宮高校に併置しているほか、フレックス・ハイスクールである学悠館高校に設置しています。

Q9 フレックス・ハイスクールについて教えてください。

学習時間帯や
科目の選択

昼夜間開講の定時制課程及び通信制課程を併置した単位制による独立校です。
定時制では、通常、1日4時間の授業を受けますが、生活に合わせて、Ⅰ部（午前）・Ⅱ部（午後）・Ⅲ部（夜間）の三つの学習時間帯から選んで入学し、100程度の多様な科目から、定められた科目や自分の学習ニーズに応じた科目を選択して学習します。
定時制の生徒は、自分の所属する部以外の部の単位や通信制の単位を、通信制の生徒は定時制の単位を修得することなどにより、3年間で卒業することも可能です。
フレックス・ハイスクールは、学悠館高校の1校です。

Q10 令和3（2021）年度以降の県立高校の再編計画について教えてください。

県教育委員会では、魅力と活力ある県立高校づくりを一層推進するため、平成30（2018）年度から令和4（2022）年度までの5か年間を計画期間とする第二期県立高等学校再編計画を策定しました。

令和3（2021）年度以降の計画の概要は、次のとおりです。

年度	再編の概要	在籍学年（令和3(2021)年度基準）						
令和3 (2021)	<ul style="list-style-type: none"> 足利清風高の情報処理科の募集停止 小山城南高の総合学科の福祉系列充実 	高1	中3	中2	中1	小6	小5	
令和4 (2022)	<ul style="list-style-type: none"> 足利高と足利女子高の統合※、単位制導入 宇都宮中央女子高の共学化、単位制導入 黒磯南高の総合学科に福祉系列導入 	高2	高1	中3	中2	中1	小6	

※ 令和4（2022）年度の足利高校と足利女子高校の統合に併せ、両校の2年生、3年生も統合新校に転学となります。

「県立高校再編」に関する情報は、栃木県のホームページを御参照ください。

栃木県ホーム>教育・文化>学校教育>高等学校>県立高校再編のページ

Q11 県立高等学校の入試について教えてください。

特色選抜

県立高等学校では、平成26（2014）年度入学者選抜（平成25（2013）年度末に実施）から、従来の推薦入学に替わり、全日制課程の全ての学校・学科で特色選抜を導入しました。

特色選抜は、各県立高等学校が、学校・学科の募集する生徒像や資格要件等を明示し、それらに基づく選抜を行うものです。特色選抜の定員の割合は、各学校が定めています。

選抜方法

出願に当たっては、受検者本人が記載する特色選抜志願理由書を提出します。

選抜の方法については、全ての高等学校において面接を行います。面接は、個人面接、集団面接及びそれらの併用のうちから、各学校・学科（系・科）の特色に応じて行います。また、面接に加え、作文や小論文、学科独自検査（学校作成問題、口頭試問、実技等）のうちから、各学校・学科（系・科）の特色に応じたものを選択して実施します。

学区の廃止

平成27（2015）年度入学者選抜（平成26（2014）年度末に実施）から、学区を廃止しました。これにより、住む地域によって制限されることなく、自分の進路希望に応じ、主体的に学校を選択できるようになりました。

「県立高等学校入学者選抜」に関する情報は、栃木県のホームページを御参照ください。

栃木県ホーム>教育・文化>学校教育>入学選考・選抜